

ウディタウンにおけるバス自動運転の実証試験報告について  
(次世代モビリティシンポで神姫バス中野氏より報告)

令和2年12月26日

あかしあ台小校区まち協

1. 実証試験の目的 ニュータウンは確実に高齢化する。安全・低コストでバスを使い続けて頂き、生活の質向上と共に買い物弱者などの予防に寄与する。

2. 実証試験期間・試乗車

2020.7.20～8.23。試乗者 1,476 人。停留所 15ヶ所。

3. 主な結果

\* 試乗車の感想は以下の通り。

(1) 路線バスとの比較

・発進・ハンドルさばきは8割以上が路線バスと同等と一定の評価。

・減速・停車時は5割以上がもう1つと評価→バス停への侵入方法について工夫が必要である。

(2) 自動運転バスに対する印象

・乗り心地が良いとした人は8割が安心と回答。しかし、乗り心地がもう一つとした人は5割以上が不安と回答。→乗り心地の改善が求められている。

(3) 無人運転に対する印象

・自動運転に対する不安は、乗車前4割程度だったものが乗車後2割程度に減少した。→やってみて見てもらうことが大切と感ずる。

・無人運転は5割以上が不安と回答→今後の検討につなげる。

\*ここからは、走行中の自動運転バスを見たときの感想で以下の通り。1,000人を無作為に抽出して400人程が回答。

(4) 自動運転バスを見かけたときの印象

・自動運転バスに対する印象について、自動車を運転している方は安心と不安が半々、徒歩や自転車は安心が過半数。→自動車運転手に対して、どんなシステムで、どのように動くか、周囲をどのように見ているか等について丁寧に伝える必要がある。

(5) 有料で利用しない理由

・有料で利用しないとした人が6割以上あった。その理由は、運行ルートに行きたいところがないが8割近くと飛びぬけて多かった。→今回はあくまでも実証ルート。導入に当たってはニーズをしっかりと把握して行先・停留所をしっかりと見定めて実施につなげたい。

(6) 無人の自動運転バスに対する意識

・無人の自動運転バスを受容する人が 程度だったのに対して、係員が乗車する自動運転バスを導入して欲しいが54.8%と最も多かった。→自動運転バスの導入に当たって最初は係員の配置を検討する必要性が認められた。

(7) 無人の自動運転バス導入に対する不安

・無人の自動運転バス導入に対する不安としては、車内で異常発生時の対応84.2%、交通事故発生時の対応66.4%、車いすやベビーカー利用時の乗車・降車36.6%と様々なもの

が挙げられた→多くの不安を取り除くため、このためにも最初は係員が必要と考えられる。

(8) 無人の自動運転バスに対して期待すること

・無人の自動運転バスに対して期待することとしては、運賃の低下 64.2%、バスの運行頻度の増加 53.7%、運転時不足時によるバスの確保 53.2%などが挙げられた。→自動運転バスの導入効果が実感できるようにすることが必要である。単に、マニュアルを自動にしますだけでは受け入れられない。

(9) 無人の運転バスがどこに運行すれば利用したいか

・無人の自動運転バスがどこに運行すれば利用したいか 新三田駅 89.2%、三田市民病院 27.7%、ウッディタウン中央駅 23.1%、センチュリープラザ 13.8%→行先を丁寧に精査し対応する。→導入に当っては、利用者のニーズをしっかりと把握して対応したい。